

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

住吉高校の伝統と実績の上に立ち、国際科学高校として、21世紀のグローバル時代をリードし、世界に貢献する人を育てる学校づくりを進める。その実現へ向けて、生徒の個を大切に、府のパイロットスクールとして新しいことに積極的にチャレンジする学校、生徒や保護者、府民のニーズや期待に応える学校となることをめざす。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 「チーム住吉」で教職員が一丸となって、国際交流や行事、生活指導を行い、「自由・自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

グローバル時代をリードし世界に貢献する人を育てるため、生徒につけたい力を定めその実現へ向けた取組みを行い、下記の中期的目標を達成する。

## 【「5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)」】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と鋭い人権感覚
- 3 理念のみならず、行動に移せる実行力とバランス感覚
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 科学に対する真摯さと謙虚さ

## 1. 学力向上と進路実現

国際科学高校改編 14年目を迎え、国のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) (再指定 2018～2022) や大阪府の『骨太の英語力』養成事業 (H29 事業終了) 等の意義を踏まえ、教職員の資質向上と組織的な教育活動により、生徒の学力向上及び希望進路の実現を図る。

## (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成

- ア すべての教科で「つけたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。
- イ 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定 (R2 完成)
- ウ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進  
アクティブ・ラーニング (探究型、双方向型、課題解決型) をめざし、「AL モデル」を開発する。  
※ 各教室への ICT 機器整備の継続 (電子黒板 R01 完了)
- エ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。(H29 より目標設定)  
※ R04 年度には、生徒の希望する進路の実現率 85%以上、国公立大学合格者 100 名以上 (H29 52 名 H30 57 名 R01 57 名)

## 2. 国際科学高校としての質的な深化

## (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合

- ア 文理融合カリキュラムの実施 ※新国際文化科への準備 ※スーパーサイエンスクラスの充実 (H30 より目標設定)
- イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上

## (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成

- ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上 ※R04 年度には、各英語コミュニケーション能力測定テストの目標値の達成

## (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実

- ア SSH の取組みの柱 ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 を確立する。
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。  
※ 学校教育自己診断 (生徒用)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(H29 81% H30 93% R01 92%)  
「科学関連、国際理解などの外部講師の話はためになった」(H29 - H30 90% R01 89%) 90%以上維持 (R01 より目標設定)

## (4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実

- ※ 各行事や取組の生徒満足度 90%以上 (R01 より目標設定) (H29 84% H30 93% R01 94%)

## 3. 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

## (1) 人権を尊重する意識の向上

- ※ 総合的な探求の時間や人権 HR のさらなる充実、きめ細かな相談支援体制の確立
- ※学校教育自己診断「人権について学ぶ機会」90%以上 (R01 より目標設定) (H29 87% H30 93% R01 95%)

## (2) マナー・規範意識等の育成

- ※ 挨拶・清掃・遅刻指導の徹底、遅刻数は年間 2000 を下回ること (R01 より目標設定) (H29 2827 H30 2517 R01 2040)

## (3) 生徒の自主的な活動の充実

- ※ 自治会活動、部活動のさらなる充実

## 4. 「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦 (支え合い高め合う組織の実現)

## (1) SIC (住吉改革委員会) に ① 学習指導 PT ② 新カリキュラム検討委員会 ③ ICT 推進 PT を置く

- ※ ① 授業改善 「AL モデル」開発 ② 「カリキュラム」の策定 ③ 授業での ICT 活用及び校務の ICT 化の促進

## (2) SSH 推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る ※全校体制化のさらなる推進 (H30 より目標設定)

## (3) 地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化 ※広報活動の充実 (H29 より目標設定)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>教育活動</b> 「学校生活が充実している(生徒 94%、保護者 93%)」、「住吉高校に入学してよかった(生徒 93%、保護者 95%)」、「他の学校にない特色がある(生徒 97%、保護者 95%)」と高い評価を得た。 昨年の授業について生徒の肯定的評価は80%であったが、本年度は、「授業がわかりやすい(生徒 84%)」と増加し、また、評価についても昨年の生徒の肯定的評価 89%が「学校の評価は納得できる(生徒 90%)」と、高い評価であった。 校内相互授業見学などで授業力の向上に努めたが、さらに研鑽を積んでいきたい。 創立 100 周年事業の一環として設置した全教室の電子黒板の活用は、「授業で ICT 機器がよく活用されている(生徒 95%)」と肯定的意見が多かった。</p> <p><b>学校生活</b> 「困っていることには真剣に対応してくれる」は 87%から 91%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が 77%から 78%であった。取組みに変化はないが若干増加した。 「学校の指導は適切である(生徒 85%、保護者 89%)」であり、昨年度(生徒 80%、保護者 86%)より若干増加している。今後も適切な指導に努めたい。 人権、命について学ぶ機会について、生徒 97%、94%、保護者 92%、90%で、ともに90%を超える肯定的意見であった。</p> <p><b>その他</b> 「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」は生徒 77%、保護者 67%と高くはないが、昨年度(生徒 66%、保護者 56%)と比較するとそれぞれ約 10%増加している。南館のトイレを改装したことによると考えられるが、これからも老朽化、設備の維持管理が課題である。 自然災害や交通機関の乱れ等への対応の周知について保護者の肯定的評価が 76%から 85%と向上した。さくら連絡網などの取組みと考えられる。</p>	<p>第1回(7月・書面) OR2年度学校経営計画について ・世界で信頼されるためには、豊かな人権感覚が必要であることが必須であることを強調する方がよいと思う。国際感覚の内実は人権感覚であり、信頼が尊敬の必要条件であることを意識させる必要がある。 ・総合科学科の課題研究について、課題の発見の部分で苦労しているように思えた。いかに「おもしろい」課題を見つけさせるかが重要。フリーハンドで課題を発見させるより、少し大きめのレールを敷いたうえで小さな「穴」を発見させるといったイメージで進めてはいかかがか。 ・生徒のポテンシャル・可能性を全教員で共有する為の情報共有体制が学校経営計画にもある定期的な模擬試験の分析会かと認識した。 ・世界で信頼され尊敬される品格を有する生徒に育てるため、引き続きしっかりと生徒指導をお願いする。 ・コロナ禍において、対面授業の制約が大きくなる中、ICT を活用したりリモートによる教育の重要性が一気に増した。今できることとできないこと、今だから急がねばならないことを精査して、強弱をつけた取組みを行ってもよいのではないかと思う。</p> <p>第2回(11/5) OSSH に関して。課題研究のテーマ設定が高校生には難しい。大学院生の力を借りるなどはどうか。OB など人脈があると思う。 ○学習指導要領が大きく変わる。今回の改定は大きい。何ができるようになるかが問われている。授業づくりが大変と思われる。評価方法もそれに伴い大きく変わる。SSH の評価観点なども、主語を学習者とするともいかもしれない。 ○OPTA から環境面について。トイレの臭い、食堂の暑さ寒さについて問題があると聞いている。今年度は予算が余っているので活用してもらいたい。</p> <p>第3回(2/26) ○SSH で行っている「公開ポートフォリオ」(課題共有ボード)は興味深い取組みである。 ○進路指導について、今年度をモデルにして、大学入試に関して第1志望を貫く生徒が多くなるように働きかけてもらいたい。 ○行事について、来年度も新型コロナウイルス感染症の状況が分からないが、友人関係や学年を越えた繋がりをつくるためにも、規模を縮小してでも実施するようにしてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア. すべての教科で「つきたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定 ウ. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進 エ. 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。</p>	<p>(1) ア・「学習指導PT」を中心とし、授業改善を行う。 ・PTによる経験の少ない教員の公開授業を推奨する。PTが中心となって経験の少ない教員への組織的支援体制を強化する。 併せて、業務の効率化を図る。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習を実施する。 イ・「新カリキュラム検討委員会」を中心に、新教育課程を完成する。 ウ・「AL モデル」の開発をめざす。 ・「ICT 推進 PT」が中心となり、「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を目標に ICT 機器等の活用を推進する。併せて、業務の効率化を図る。 エ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。 ・学年団ごとの自主的な講習でなく、進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・模擬試験終了後、進路指導部と学年団が連携し、分析会を実施。生徒の情報を共有する。</p>	<p>(1) ア・公開授業、研究協議を年間6回以上実施 (R1 6名 9回)  イ・新指導要領「カリキュラム」の完成 ウ・「AL 型授業」の公開 ・教員の ICT 機器等の利用率 自己診断 95%(R1 95%) ・授業アンケート「生徒意識2 知識や技能が身についた」の項目 3.3 以上 (R1 1回目 3.31 2回目 3.31)  エ・1年次1学期より系統的な進路ホームルームを実施。(年間 5 回以上) ・系統的な進学講習の開催 (放課後、長期休業期間合計4回)  ・模擬試験の分析会を定期的に開催。(年間3回) ・国公立大学合格者 70 名以上。(R1 現役 57 名) ・センター試験受験者を 200 名以上 (H30 216 名 R1 194 名)</p>	<p>ア・学習指導PTの活動として、6名計9回の公開授業を行った。次年度も引き続き取り組んでいきたい。(○)  イ・新カリキュラムの大枠を作成した。(○) ウ・ICT 機器等の利用率は 95%であった。(○) ・授業アンケート「生徒意識2 知識や技能が身についた」の項目は1回目が 3.3、2回目が 3.4 であった。(◎)  エ・進路HRを 5 回実施し、進路だより等による補完も行った。(○) ・3年夏期講習 15 講座 350 名受講 冬期講習 15 講座 180 名受講 1、2年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず 早朝・放課後講習も実施した。(○) ・模擬試験の分析会を 3 回実施した。(○) ・国公立大学合格者 58 名(速報値)(△) ・大学入学共通テストは 出願 215 名 受験 202 名(○)</p>

<p>2 国際科学高校としての質的な深化</p>	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合 ア. 文理融合カリキュラムの実施  イ. ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上  (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア. 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上  (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア SSH の取組の柱を確立 イ. ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。  (4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実</p>	<p>(1) ア・スーパーサイエンスクラスを充実させる。 イ・SSHルーブリック手法の普及。 ・国際文化科、総合科学科の合同行事を深化させる。 併せて、業務の効率化を図る。  (2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE(スーパーイングリッシュ)、SK(スーパーコリアン)等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 イ・SSC(スーパーサイエンスクラス)において科学英語の学習を行う。 ウ・スピーキングテストの実施  (3) ア・SSH の取組の柱①課題研究の質の向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 を確立する。 イ・ESD を柱とした総合的な学習の時間、カンボジアへのアジアフィールドスタディ、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。  (4)「行事の精選」を課題として、精選及び効果的な実施を確立する。併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) ア 学科、学年を越えたスーパーサイエンスクラスの充実 ・学校教育自己診断における「評価について納得できる」を90%とする。 (R1 89%) ・SSH 国際共同研究を両科で推進する。 ・中間評価の準備  (2) ア ・TOEIC の平均スコア 500 点以上 (R1 感染症防止のため中止) ・GTEC の平均スコア 850 以上 (R1 平均点1年 858.9 全国平均 722 2年 880.4 全国平均 771 最高点1年 1232 満点 1280 2年 1159 満点 1280 A2.1 以上1年 99.6%、2年 98.5%) ・英検 2 級 1・2 年 受験生の 45% 準 2 級 1・2 年 受験生の 70%  (3) ア・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」「外部講師の話はためになった(科学関連、国際理解)」の項目を 90%とする。 (R1 92%、89%)  イ・アジアフィールドスタディの再編  (4) ・行事の精選 ・生徒の満足度 90%以上維持する。 (R1 宿泊行事 95% 体育祭等 93%)</p>	<p>ア・「学習の評価は納得できる」は90%であった。(○) ・SSC が中心となり、国際共同研究について姉妹校とオンライン交流を通じて会議を開いた。(○)  ア・TOEIC 平均 586.7(○)  ・GTEC 平均 1年 849.2 2年 893.3 (○)  ・英検 2 級 1・2 年 受験生の 43% 準 2 級 1・2 年 受験生の 94% (○)  ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は94%であった。(○) ・「外部講師の話はためになった(科学関連、国際理解)」(新型コロナウイルス感染症の影響で今年度はアンケートを取っていない)(-)  イ・アジアフィールドスタディについては再考中(-)  ・遠足、学園祭 95% (今年度は、体育祭は中止し、宿泊行事はスタディツアー以外は中止した。)</p>
<p>3 豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上  (2) マナー・規範意識等の育成  (3) 生徒の自主的な活動の充実</p>	<p>(1)・人権教育推進委員会において、人権ホームルーム及び教員研修の一層の充実を図る。本名使用の指導、人権講演会を実施する。 ・支援カード I、II の活用及び支援委員会によるきめこまかな生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 ・帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会の活動を充実させる。  (2) ・生活指導部中心に学年団との連携により、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等の徹底を図る。 ・保健部中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の徹底を図る。  (3)・自治会中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) 人権ホームルームの質のさらなる充実を図る。 ・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある。」90%以上を維持する。 (R1 95%) ・教員研修を年間3回開催 (目的別実施含む。) ・学校教育自己診断「担任以外に相談できる先生」80%以上 (R1 77%)  (2)・遅刻指導の徹底、年間 2000 件以内 (R1 2040 件)  ・清掃美化について HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を整える。年間3回チェックを行う。  (3)・学校教育自己診断「部活動に積極的に取り組んでいる」85%以上 (R1 91%) ・新入生部活動加入率 90% (R1 97.9% 重複入部を含む)</p>	<p>・「人権について学ぶ機会がある。」は97%であった。(◎)  ・教員研修を3回実施した。(○) 「SNS に潜む危険」「ジェンダーフリー教育(ハラメントを考える)」「同和問題と人権学習」 ・「担任以外にも相談できる先生がいる」は 78%であった。引き続き相談体制の充実を図りたい。(△)  ・遅刻は年間 2083 件であった。(△)  ・毎月キャンペーンを実施し、年間7回チェックを行った。次年度も学習環境を美しく保つよう努めたい。(◎)  ・「部活動に積極的に取り組んでいる」は 91%であった。(◎)  ・新入生部活動加入率は 93%(重複入部を含む)であった。(◎)</p>

## 府立住吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 チーム住吉の確立による新しい課題への挑戦</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会)に ① 学習指導 PT ②新カリキュラム検討委員会 ③ ICT 推進 PT を置く</p> <p>(2) SSH 推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る</p> <p>(3)地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会)① 学習指導 PT ②新カリキュラム検討委員会③ ICT 推進 PT 活動の推進 「新カリキュラム検討委員会」を中心に、新教育課程を完成する。</p> <p>(2)「推進会議」により、事業の企画立案や進捗管理等を行う。 ②「住高支援ネットワーク」の充実。課題研究や講演会の講師等の支援を受ける。 併せて、業務の効率化を図る。</p> <p>(3)・地元の2小学校、1中学校と「SSH実験教室」の内容を充実させるとともに、特に中高の教員交流を推進する。</p> <p>・総務部中心に学年団と連携し、効果的な広報活動を展開する。 学校説明会・体験入学会やホームページ等を活用した広報活動の充実を図る。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1)PTによる研究、報告。 ・PT活動 10回</p> <p>(2) ・推進会議 10回 ・「住高支援ネットワーク」を課題研究に活用する。 メール、SNS等により、質疑応答、指導助言等の支援</p> <p>(3) ・小学生対象の教室を年間1回、中学生対象の教室を年間3回実施する。</p> <p>・地元中学校との教員交流を年間2回以上実施し、本校のSSHで作成した教員マニュアルや教材等の普及を行う。 ・学校行事へのPTAの参加者増をめざす。 ・学校説明会・体験入学会を年間3回開催する。(R1 4回 追加1回を含む) ・中学校およびPTAへ連絡を取り、本校プレゼン等の要望に応える。</p>	<p>・PT活動をそれぞれ10回以上行った。次年度、ICT推進PTを委員会組織とする予定である。(○)</p> <p>・SSH推進会議を17回実施した。次年度は、中間ヒアリングでの指摘への対応を検討するとともに、国際共同研究等新たな取組みの検討を行う予定である。(○)</p> <p>・SSH実験教室は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず。(ー)</p> <p>・中学校との相互授業見学は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず。(ー)</p> <p>・学校説明会を実施形態を工夫して2回実施し、いずれの回も申込み締切日前に定員を超えた。(○)</p>
---	--	--	--	--